

# カラムシ文化発信へ



## 県内5団体が「ネットワーク」 情報交換や新商品開発

カラムシ文化を全国に発信しようと設立された「県からむしネットワーク」の初会合＝13日、上越市

麻の一種「カラムシ」を地域おこしなどに活用してきた県内の5団体が13日、「県からむしネットワーク」を設立した。情報交換や新商品の開発で連携し、全国に越後のカラムシ文化を発信したいとしている。

参加するのは「越後青芋の会(上越市)」「妙高からむし研究会(妙高市)」「からむし街道(柏崎市)」「中島屋商店(湯沢町)」「からむし応援団(十日町市)」の5団体・企業。

上越市の上越文化会館で開かれた設立総会では、からむし応援団の村山好明代表(64)を会長に

選出した。各団体が栽培や食品加工、織物や紙すきなどにカラムシを使い、普及を図ってきた実績を報告した。

今後は年2回程度、会合を開き、情報交換や勉

強会を行う。新商品の開発を目指す。カラムシは、越後上布など上質な織物の原料に使われる。上越・魚沼地域はカラムシの一大産地だったとされ、戦国時代からアイデアを出し合い、発信していきたい」と話した。

売した。

村山会長は「カラムシは繊維として肌に優しく、食品としてもミネラルが豊富。いろいろなアイデアを出し合い、発信していきたい」と話した。

## 観光の広域連携探る

### 沿線・近隣6県 官民で初会議

長野

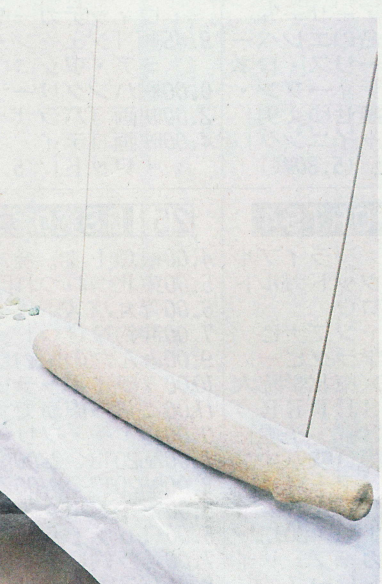
2015年春の北陸新幹線開業を控え、本県など新幹線沿線・近隣6県の行政と観光関係者、JRが観光振興を話し合う

「かがやき・はくたか観光会議」(国土交通省北陸信越運輸局主催)が13日、長野市で初めて開かれた。約30人の参加者が



業に向け、本県など6県の観光協議した「かがやき・はくたか」＝13日、長野市

## 感じて



最大級の石棒＝13日、県庁

## 新潟東港防波堤 釣り場開放延長



### 来月29日まで 冬期の安全検証

県は13日、有料の釣り場として開放している聖籠町の新潟東港第2東防波堤の開放期間を12月29日まで試験的に延長すると発表し、冬期間の運営が可能か

どうか検証する。安全が確保できれば来年以降も期間を延長する方針だ。例年3月～11月末が開放期間だが、冬場も天候によって安全に釣りができる

同課は「安全な釣り場を、なるべく長い期間提供したい。試験延長で対策が十分か確認する」としている。

とみられることから実施する。県港湾整備課によると、昨年12月の気象条件では、10日間ほど開放できたという。延長にあたっては降雪や凍結の可能性があるため、安全対策を強化。従来のライフジャケットに加え、滑り止めの付いたスパイクシューズの着用を義務付ける。積雪10センチ以上の場合も閉鎖する。

防波堤は水難事故を防ぐため、原則立ち入り禁止だったが、釣り客の要望などを受け、2011年6月から開放している。年々利用者が増えており、ことは10月末までに前年同期を約4割上回る約2万3千人が利用した。